

田中雄次教授 略歴ならびに業績目録

略 歴

- 1968年 3月 東京教育大学文学研究科修了
 1968年 4月 熊本大学教養部助手
 1970年 4月 熊本大学教養部講師
 1976年 4月 熊本大学教養部助教授
 1986年 1月 熊本大学教養部教授
 1990-91年 文部省在外研究員としてテュービンゲン大学（ドイツ連邦共和国）に留学
 1997年 4月 熊本大学文学部教授
 2001年 4月 熊本大学地域科学科・学科長（2002年 3月まで）
 2002年 4月 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授（兼任）
 2005年 4月 熊本大学総合人間学科・学科長（2007年 3月まで）
 2006年～ 日本映画学会常任理事長
 2008年 3月 定年退職

業 績 目 録

1. 著書

1-1 単著

- ・『ワイマール映画研究—ドイツ国民映画の展開と変容—』熊本出版文化会館、2008年
- ・『ワイマール映画研究序説』熊本大学社会学教室、2006年

1-2 編著

- ・『映画・社会・教育論集』、科学研究費補助金（基盤研究（C））プロジェクト研究、2008年
- ・『サイレント映画とその時代』、科学研究費補助金（基盤研究（C））プロジェクト研究、2007年

- ・『文化・教育論集』、熊本大学社会文化科学研究科プロジェクト研究、2007年
- ・『ラフカディオ・ハーンとその時代』熊本大学社会文化科学研究科プロジェクト研究、2006年
- ・『21世紀に再考するラフカディオ・ハーン』熊本大学社会文化科学研究科プロジェクト研究、2005年
- ・『グローバル化の視点から見たラフカディオ・ハーン』熊本大学社会文化科学研究科プロジェクト研究、2004年
- ・『映画この百年—地方からの視点』熊本出版文化会館、1995年
- ・ラジオ講座テキスト『映画この百年』熊本大学、1993年

1-3 共編著

- ・『現代に生きるラフカディオ・ハーン』熊本出版文化会館、2007年
- ・『グローカリズムの射程』成文堂、2005年
- ・『水俣からの想像力—問いつづける水俣病—』熊本出版文化会館、2005年
- ・『水俣の経験と記憶—問いかける水俣病—』熊本出版文化会館、2004年
- ・『新アクセス独和辞典』三修社、2004年
- ・『アクセス独和辞典』三修社、1999年

1-4 共著

- ・『女と男の共同論』成文堂、2003年
- ・『国文学年次別論文集』（近代5）学術文献刊行会、2000年
- ・『東アジアの文化構造』（熊本大学「地域」研究Ⅱ）九州大学出版会、1997年
- ・『新アルファ独和辞典』三修社、1990年
- ・『近代ドイツ抒情詩の展開』同学社、1986年

2. 論文

2-1 単著論文

- ・「フリッツ・ラング『死滅の谷』（1921）の構造分析—ドイツ国民映画の展開—」熊本大学文学部論叢、第92号、2007年
- ・「ハリウッドの野望とドイツ国民映画の変容」熊本大学社会文化科学研究科紀要、第4号、2005年

- ・「ドイツの〈アメリカ化〉と国民映画の諸問題」熊本大学社会文化科学研究科紀要、第2号、2003年
- ・「西部劇『赤い河』と『シェーン』にみる人間関係—アメリカ人の精神構造の変容に関する一考察—」熊本大学総合科目『映画論集』、2002年
- ・「G.W. パプストの『喜びなき街』（1925）の内的構造」熊本大学総合科目研究報告、第4号、2001年
- ・「語りかける自然—宮沢賢治のアニミズム—」熊本大学総合科目研究報告、第3号、2000年
- ・「芸術映画の誕生—『プラーグの大学生』（1913）試論—」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第32号、1997年
- ・「『メトロポリス』あるいは技術時代のユートピア」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第28号、1993年
- ・「表現主義映画『カリガリ博士』とその時代」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第27号、1992年
- ・「ヘルダーリンにおける『運命』の問題（下）」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第25号、1990年
- ・「ヘルダーリンにおける『運命』の問題（上）」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第24号、1989年
- ・「ドイツ語教育の活性化のために」『影』30号、1988年
- ・「アルノー・ホルツの喜劇『社会貴族主義者たち』—その作劇法と時代批判—」『影』26号、1984年
- ・「アルノー・ホルツ『ファンタズ』の世界」『影』25号、1983年
- ・「ヘルダーリンにおけるギリシャと『西欧』」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第16号、1981年
- ・「『エンペドクレス』における罪の問題」『影』22号、1980年
- ・「『エンペドクレス』劇における犠牲死の問題—特に「生の行路」との関連において—」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第15号、1980年
- ・「『ヒュペリオン』の構成」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第13号、1978年
- ・「『ヒュペリオン』における物語手の姿勢」『影』20号、1978年
- ・「ヘルダーリンと『共和主義的』原理」熊本大学教養部紀要、外国語・外

国文学編 第10号、1975年

- ・「ヘルダーリンにおける『悲劇的なもの』の詩的構造（その二）」『影』17号、1975年
- ・「ヘルダーリンにおける悲劇の意味」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第8号、1973年
- ・「ヘルダーリンにおける『悲劇的なもの』の詩的構造（その一）」『影』14号、1972年
- ・「ヘルダーリンにおける詩的生動性の問題」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第4号、1969年

2-2 共著論文

- ・「映画こそ今の人間社会」熊本大学生涯学習教育研究 第2号、2003年
- ・「ドイツ語教育改善論議に必要な視点」日本独文学会ドイツ語教育部会、32号、1987年

3. 研究報告書

- ・『ハリウッドの野望とドイツ国民映画の危機—〈パルファメト協定〉をめぐる問題群—』（研究課題番号 16520164）平成16-17年度科学研究費補助金（基盤研究C（2））研究成果報告書、2006年
- ・「放送公開講座の大学授業への活用」放送教育開発センター、1997年

4. 翻訳（共訳）

- ・『ドイツ徹底自然主義作品集』三修社、1984年
- ・「アルノー・ホルツ『社会貴族主義者たち』（下）」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第20号、1985年
- ・「アルノー・ホルツ『社会貴族主義者たち』（上）」熊本大学教養部紀要、外国語・外国文学編 第19号、1984年

5. 講演

- ・「ドイツ国民映画の典型としての『ニーベルンゲン』（1924）」日本映画学会第3回全国大会 2007年12月1日（於：京都大学総合人間学部）
（学会発表、教科書・資料・小論・書評などは省略）